# This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

# **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

# IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

Japanese Patent Publication No. 55-19828

Publication Date: May 29, 1980

Japanese Patent Application No. 51-154779

Filing Date: December 21, 1976

Japanese Patent Laid-Open Publication No. 53-79681

Laid-Open Date: July 14, 1978

Inventor: Shigeru Yada

Applicant: YAMANI SHOUJI KABUSHIKI KAISHA

Title of the Invention: METHOD FOR PRODUCING SEALED CONTAINERS

## Claim:

Method for producing a sealed container, comprising the steps of:

preparing a paper-made tube having a definite height and external diameter, a covering tube made from heat shrinkage film, and a bottom lid made of waterproofing material,

fitting said bottom lid into one opening portion of said paper-made tube, inserting said paper-made tube into said covering tube, shrinking said covering tube with heating.

## Excerpt of Detailed Description of the Invention

The present invention relates to a method for producing a sealed container with attaching a heat shrinkage plastic film to the outer surface of paper-made tube.

Before the sealed container is produced, a paper-made tube 1, a covering tube 2 made from heat shrinkage film, and a bottom lid 3 made of waterproof material are prepared, the tube 1 having a definite height and an external diameter, the tube 2 being relatively higher than the tube 1 and being slightly smaller in internal diameter than the external diameter of the tube 1, the lid 3 being an approximately the same in external diameter as that of the tube 1.

The tube 1 may be the commercial product in public, and the heat shrinkage film may be the film made of polyvinyl chloride, polypropylene, polyethylene or the like. The internal diameter of the tube 2 is slightly larger than the external diameter of the tube 1,

where the difference between the internal diameter and the external diameter is set in accordance with the heat shrinkage rate of the tube 2.

Then the lid 3 is fited to an opening portion 1a of the tube 1. As shown in Fig. 2, the lid 3 has brim portion 3a and the main body portion 3b. The body portion 3b is slightly tapered off to facilitate the fitting. The lid 3 may be used with the fitting to the opening portion of the tube 1 and the shape of the lid 3 is not limited to the embodiment.

Then the tube 1 is inserted to the tube 2 so that the tube 1, which is fitted the lid 3, is covered with the tube 2 (Fig.2).

19日本国特許庁(JP)

① 特許出願公告

## 郵 (B2)

昭55-19828

1 Int.Cl.3

604等

識別記号

庁内整理番号

2000公告 昭和55年(1980) 5月29日

B 65 D 25/34 8/22 6686-3E 6686 - 3E

発明の数

(全3頁)

1

## の密封容器の製造方法

昭51-154779

昭51(1976) 12月21日 22出

開 昭53-79681 公

@昭53(1978)7月14日

⑫発 眀 者 矢田茂夫

岐阜市美島町 3丁目 37番地

願 人 ヤマニ商事株式会社 砂出

岐阜市清本町2丁目44番地

弁理士 仙波正 130代理

外具备

### の特許請求の範囲

1 一定の高さと径による紙管と紙管の高さより やや大きくかつ紙管の外往よのわずかに大きい径 15 に前記の底蓋3を嵌合する。図示してある底蓋3 による熱収縮性プラスチックスフイルムによる保 護筒と紙管の内径にほぼ等しい径により、かつ防 水性材料による底蓋を設け、紙管の一方の開孔部 に底蓋を嵌合し、底蓋を嵌合した紙管を被うよう にして前記保護筒内に紙管を装入し、保護管によ 20 り被われた紙管に加熱を施して保護節を紙管の周 面に収縮させ密封容器の製造方法。

## 発明の詳細な説明

#### (発明の目的)

/フィルムを熱収縮により固着させる密封容器の製 造方法に関する。

本発明の目的は熱収縮性ブラスチックスフィル ムを紙管の周面に熱収縮を利用して固着させると とにより簡易な密封容器を得ることにある。本発 30 明の他の目的は容器の主体に紙管を利用し、その 周面に熱収縮性プラスチツクスフイルムを固着させ ることにより、従来のこの種の容器に比較してそ の製造コストを大幅に低減化させることにある。

#### (発明の構成)

以下本発明の詳細を添付図面を参照して説明す る。

密封容器を製造するに先立つて予じめ一定の高 さと径による紙管1と紙管1の高さよりやや大き くかつ紙管1の外径よりわずかに大きい径による 熱収縮性プラスチックスフィルムによる保護筒 2/と 5 紙管1の内径にほは等しい径により、かつ防水性 材料例えばプラスチックスによる底蓋3を設ける。

2

上記の場合紙管1は市販品の公知のものでよく、 また熱収縮性プラスチックスフイルムは例えば塩 化ピニール、ポリピロピレン、ポリエチレン等の -10 フィルムでよい。保護筒2の径は紙管1の外径よ りわずかに大きく設けてあるが、保護筒2の径と 紙管1の外径の差はほぼ保護筒2の熱収縮率に対 応えせ熱収縮率の分だけ保護筒2をわずかに大き く設けてある。そとで紙管1の一方の開孔部1a には鍔部3aが設けられ、嵌合し易くするためそ の主体部3bはわずか乍ら内側に向けてテーパー 状に設けてあるが、かならずしもこの形状にのみ 制限されるものではなく、必要なことは紙管1の 開孔部内に密着し篏合できるものでよい。

次に底蓋3を嵌合させた紙管1を被うようにし て前記保護筒2内に紙管1を装入する(第2図参 . ( ) 积

この場合保護筒2の高さは前記の通り、紙管1 本発明は紙管の周面に熱収縮性プラスチックス 25 の高さよりやや大きく設けてあるが、保護筒2の **爾端が紙管1の両端から外方に夫々飛出すように** 配置し、紙管1に対して保護筒2が片寄らないよ うにする必要がある。つまり第2図において、保 腰筒 2 の上下の端は夫々紙管 1 の端から飛び出し ているが、熱を加えたときこの飛び出している部 分の保護片2の一部は収縮して下方部分は第3図 に示す如る底蓋3の周縁部に密着固定され、保護 片2の上方部分は紙管1の開孔部16の内閣に密 着固定される。加熱により収縮させて保護筒2を 35 紙管1に固着させるから、加熱温度は保護筒2の 材質によつて若干変化するが、保護筒2に熱収縮 を施す必要があり、例えば塩化ビニールフイルム

の場合であればその熱収縮温度は250~300° であるから、上記の加熱を与える必要がある。 (発明の効果)

本発明は上記の工程であるため、樹材を一切使 用することなく紙管の周面にプラスチックスフィ 5 産費用も金属罐の場合より著しく少なくて済む。 ルムによる保護膜を密着固定できる。従つて紙管 の周面は防水性のあるプラスチックスフィルムに よる保護筒と防水性のある底蓋によつて被われる から、底蓋の反対側の開孔部に防水性の上蓋を冠 装させることにより密封容器を得ることができる。10 中央縦断面図、第3図は第2図の状態においてプ また保護簡はプラスチックスフィルムであるから、 透明とすれば紙管に対して、又紙管に関係なく保 護筒自体に対して印刷が楽に行われ、従来のいわ ゆる茶筒等の金属镰に印刷する場合に比較して自 由でかつ色彩、模様に変化のある印刷が実施でき 15 熱収縮性プラスチックスフイルムによる保護筒、 る。その上紙管とプラスチックスフィルムおよび

防水性の蓋から材料は構成され、大部分の材料は 紙管によるため金属罐の材料費に対して大幅に材 料費を低減できるし、その製造工程についてもへ ンダ付けや緑の抑え合いのような煩雑さはなく生 図面の簡単な説明

第1図は本発明の製造前の各部の斜視図、第2 図は底蓋を紙管に嵌合させ、その紙管をブラスチ ックスフイルムによる保護筒内に装入した状態の ラスチツクスフイルムによる保護筒に加熱を与え 酸フイルムを収縮させた状態を示す擬断面図であ **۵**。

主要部分の符号の説明、1 ……紙管、2 … 3……防水性材料による底蓋。



